

## 平成 25 年度放射線監視事業調査結果（第 1・四半期）

1. 調査機関 環境政策課、環境保健センター
2. 調査期間 平成 25 年 4 月～平成 25 年 6 月
3. 調査項目 空間放射線量率
4. 調査方法 文部科学省放射能測定シリーズ 17『連続モニタによる環境  $\gamma$  線測定法』に準拠
5. 測定機器 低線量率計、高線量率計  
 ※ 低線量率の測定に適した NaI (Tl) シンチレーション検出器と高線量率の測定に適した電離箱検出器を併用して測定。
6. 調査結果  
 上関町八島における 2013 年 4 月～6 月の空間放射線量率調査結果を表 1 に示す。

表 1 空間放射線量率

区 分		測定値* (nGy/h)			
		4 月	5 月	6 月	第 1・四半期
低線量率計	最高値	72	62	70	72
	最低値	33	33	34	33
	平均値	35	36	37	36
(参考) 高線量率計**	最高値	82	73	79	82
	最低値	48	48	48	48
	平均値	51	51	52	51

\*測定値は、1時間平均値の最高、最低、平均値を示す。

\*\*高線量率計は宇宙線も測定するため、平常時においては、低線量率計よりも高い値を示すことがある。

降雨時に空間放射線量率は上昇する。このことと、原子力施設からの人工放射性核種の放出に伴う空間放射線量率の増加を区別するため、過去の測定値(今期は 2013 年 4 月のデータを使用) から求めた「平均値+標準偏差の 3 倍」を超える値を抽出し(表 2)、スペクトルを調査した。

図 1 に最高値、図 2 に最低値の時のスペクトルを示す。降雨時には図 1 にみられるような自然放射性核種(ラドン子孫核種)の増加が見られた。このことから、今期の「平均値+標準偏差の 3 倍」を超える値については、自然放射線の変動によるものと考えられる。

### 7. 問合わせ先

本調査結果の内容に関するお問い合わせは、山口県環境政策課(Tel:083-933-3034)にお願いします。

表 2 空間放射線量率(「平均値+標準偏差の3倍」\*を超えたもの)

日	時	低線量率計	(参考) 高線量率計	風向**	風速	雨量
		nGy/h	nGy/h			
4/7	12:00	46	60	WNW	10.6	1.0
4/14	20:00	47	62	WSW	2.0	0.5
4/20	19:00	53	65	NE	7.3	2.5
4/24	4:00	50	61	NE	4.3	2.0
4/24	10:00	72	82	W	6.6	3.0
4/30	7:00	45	59	WSW	3.8	1.0
5/10	13:10	53	64	NNW	6.1	3.0
5/19	11:40	64	74	ENE	5.9	3.0
5/28	20:50	49	61	ENE	2.5	6.0
6/1	18:00	58	70	E	0.5	6.5
6/2	1:40	47	61	ENE	5.1	1.5
6/15	9:50	50	62	SW	1.8	13.0
6/19	15:40	52	64	SW	0.6	1.5
6/20	15:10	49	63	ESE	3.3	5.0
6/21	13:50	48	60	ENE	9.1	1.5
6/23	22:20	48	61	CALM	0.2	3.0
6/24	4:00	49	61	SW	0.6	3.5
6/26	9:40	72	79	E	2.1	4.5

\* 低線量率計の10分間値(2013年4月)の平均値と標準偏差を使用し計算した結果、45nGy/hとなった。

\*\* 「CALM」とは、風速が0.2m/s以下の風

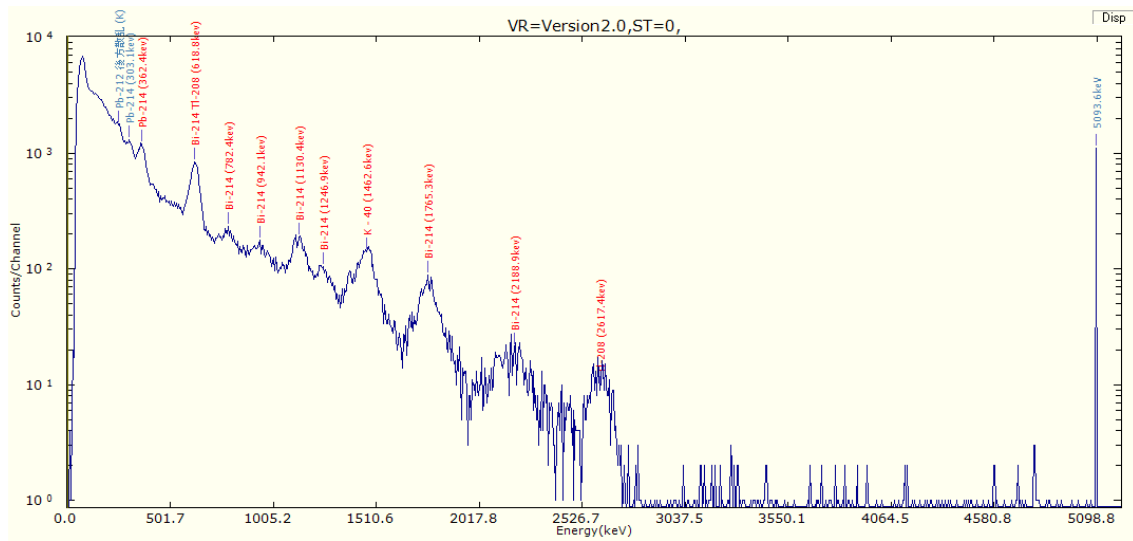


図1 2013年4月24日 10:00 72.3nGy/h (最高値時のスペクトル)

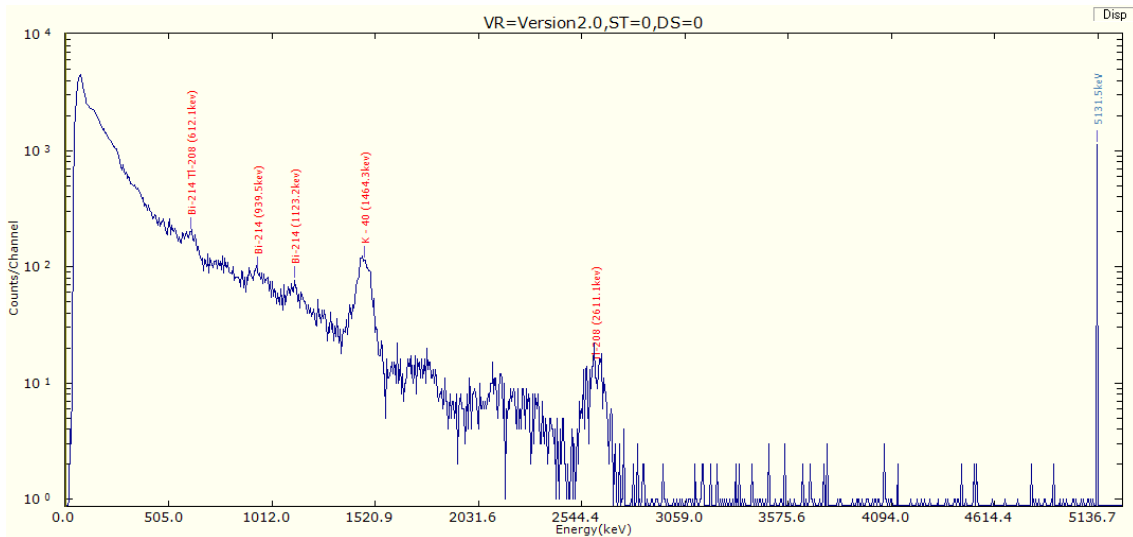


図2 2013年4月8日 19:50 32.5nGy/h (最低値時のスペクトル)

(参考)

自然放射性核種 (天然に存在するもの。K-40 以外はラドンの娘核種)

K-40, Pb-212, Tl-208, Pb-214, Bi-214

人工放射性核種

I-131 (364keV), Cs-134 (605keV), Cs-137 (662keV)